

音の町の黒崎

新聞からたどる黒崎の歴史 (七十)

大正四年二月、自動車が健康に有害であると
反対論があがった。

(先月号からの続き)

「それからまた一か月近く経つと卵が赤くなつてきて、卵の中に動く稚魚の姿を見ることができた。そして間もなく孵化をはじめ、卵を破つて小さなめだかのような稚魚が体に袋のようなものを付けて出てきた」

「その袋の中から栄養をとつて少しづつ大きくなって浮き上がるようになった」

「漁協からもらった稚魚に与える餌は二種類あつて、稚魚のまだ小さい一、二センチ位の時は粉末のように小さいすり餌を、大きくなるにつれて一、二ミリ位の餌を大体時間をきめてやつた」

「稚魚が成長するにつれ、水槽の中が次第に窮屈になつてきた。そんな中、どうした訳か、ひれやしっぽのないのや、目玉がない稚魚が出てきてびびりした。これは、よく観察したら、成長がおそく小さい弱いような稚魚を大きな魚が襲って食べているのがわかった。こんな小さな魚に

も人間のような生存競争があるのだと、こわいように感じられた」

「早速もう一つ水槽を持ってきて、発育のおそい弱い稚魚と、大きくて元気な稚魚を分けて入れ、こうした争いの起こらないようにした」

「しかし、この間にも、日に何十匹もの稚魚が死んでいくのを見て、たとえこんな小さな生き物でも、命の大切さが感じられかわいそうに思つた」

「当番の日、学校に行くときすぐ水槽を見に行つた。水槽の中に何十匹も稚魚の死んでいることがよくあり、その死んだ魚を早く取出さないと水槽の水が腐り外の稚魚が病気になる心配があつたが、この魚を取り除くのがまた大変だった。いろいろ考えたがうまくいかず、先生から竹ヒゴの先に何か引っかける物を造つてもらつてこの作業をしたが、循環器の管のあたりの狭い場所

にはさまれたりして死んでいく稚魚を取り出すのに苦労した」

「稚魚がだんだん大きくなるにつれ、その糞がまた水槽の水を汚染させるため、一週間に一回位は水槽の水の入れ替えをしなければならなかつた。この時には、当番の二、三人ではとてもできないので、先生や五年生の全員から手伝ってもらつた。このころには稚魚も大きいので四センチ前後に成長していたが、その数は千数百匹になっていた」

山田小の子供たちが自分たちで孵化飼育した鮭の稚魚を信濃川に放流

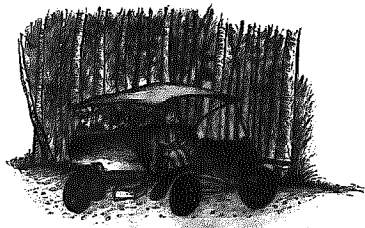
平成八年三月、山田小鮭係の子供たちが昨年十一月から卵の孵化から飼育と、約四か月間にわたる熱心な世話によつて四、五センチに成長した鮭の稚魚の放流の日が来た。自分たちの手で孵化させ、自分たちが飼育して育てた稚魚である。漁協からもらつた卵は三千粒だった。その日放流するのはその内の千五百匹、約三分の一であるが、その成功率については、信濃川漁協組合長の氏田さんは、「子供たちの手でこの成果は誠にりつぱなものです」と推賞している。

黒崎町内の小学校でただ一校、鮭の卵の孵化から稚魚の飼育、そして、放流までを成し終えた山田小鮭係の子供たちに拍手を送りたい。彼らは鮭の稚魚との四か月間のつき

合いで、命の尊さや、魚にもある生存競争、係同士の共同作業の大切さなどいろいろと貴重なことを学んだ。

彼らの育てて放流した千五百匹の内できるだけ多くの鮭が故郷の川にのぼつてくることを願ひながら橋を閉じる。注 鮭の稚魚のとも喰ひについて、

村上市のいよばや会館の館長さんに聞いたが、同館ではたぐさんの鮭の稚魚を育てているが、とも喰ひという事はなく、山田小のとも喰ひは、餌を与える回数が多い学校に登校して下校する間と短いため、餌を充分に与えてやればとも喰ひはなくなるだろうと言つておられた。



明治42年、来迎寺→小千谷間を走った乗合自動車

最初自動車の発明された当時に於いては、時間の節約されることを思つて心身の休養が出来得べきことを非常に喜んだのであつた。ところが十年を経験した今日に於いては自動車使用者等の多くは、自動車果たしてその予想の如き幸福をもたらしたか否かについて熟考し、そこに悔るべからざる欠陥と弊害を認めざることを知るに至つたのである。彼らは曰く、自動車は時間の節約をなし得ることは事実である。けれどもそれは丘を降るにあたりて絶壁の上から落ちるようなもので、到着は早くともそれに伴う所の色々の弊害であると。

◎神経組織の過勞

多くの医師はいう。自動車の発明は健康上最も必要なる休息を奪い去つた。吾々は自動車に乗ることにより余りにも多く神経を勞し過ぎることになった。これは自動車の常用者は変化というものがなくなつたからである。

これまで汽車や電車や馬車などを用いて日々に変化ある生活を楽しんで居たものが、自動車をを用いるようになりて其の目的地に真つ直ぐに到着して用事が済むと又直ちに帰途することになった。かくてこれまで其の思想の流れの變化しつゝあつた面白い日々の細事はことごとく看過されることとなつた。(続く)

自動車の今昔
自動車の反対論が新聞に載つた
大正四年二月十四日記事
自動車と健康
◎自動車の健康に及ぼす弊害

(続く)



平成十年十一月発行 四二二号 発行所 黒崎町 千九五〇一二九六 新潟県西蒲原郡黒崎大野二八四三一 電話 〇二五三七七三三〇一 編集 企画商工課 (担当 広報統計係) 印刷 小野塚印刷